

県下地方史研究の動向

立川輝信

全国的に年を追ふて盛になつてゐる地方史研究熱は本県に於ても同様の氣運で進み、一時戦争で中断されてゐた県下各地のこの種グループ活動も漸次復活し、これに伴ふ機関誌も復刊を見、尚新に生れたるもの、又生れんとしつゝある地域も相当ある現状である。以下三十年一月以降の動向に就て、その大要を記することとする。

この動向の中で最も注目すべきは我が大分県地方史研究会で、幸に会員各員の御協力により、会誌「大分県地方史」も第九号の発刊を見、研究会其他所期の目的を遂行し、名実共に県下地方史研究の推進力となつてゐることは御同慶の至りである。しかし未だ十分とは申されない、今後一層会員各位の熱烈なる御協力を願つて止まない次第である。

昭和十五年に創立され、内地は勿論、外地の郷土出身者迄多数を会員として獲得してゐた杵築史談会（会長創立以来引続き土居寛申氏）も、昨三十年八月に復活、機関誌「杵築史談」（A五P約七〇）近く復刊第三号を出

すべく準備である。

臼杵史談会も戦時統制のため、昭和十九年会誌廃刊、続いて主幹久多羅木氏の大分転住で有名無実の姿となつてゐたが、今村修氏が二十九年九月、市中央公民館長となるに及んで、同好者の賛助を得て今三十一年一月再発足し、会誌「臼杵史談」も元の如く季刊として復刊、第三号通巻第四十号（A五P五〇）を出し（主幹高橋良一氏）、史蹟巡歴、研究会、講演会等盛に活躍してゐる。

宇佐史談会はその産みと育ての親であつた故小野精一氏の愛弟子、中野幡能氏によつて昭和二十九年八月、宇佐地方史研究会として再発足し、会誌「宇佐史研究」も復刊、通巻一二七号を出してゐる。

三重史談会も、戦後活動を開始し、研究会実地踏査、講演会、研究物の発刊等を行つてゐるが、主役の伊東東会長が近來健康を害していることは、本史談会は申す迄もなく本県としても甚だ遺憾とするところである。然し幸にも後に続く土生米作氏等の助力により、大したる支障もなく發展的活動を進めてゐる。竹田史談会は北村清士が中心となり、昭和三十年一月以降左の如く活躍してゐる。

(一)、例会（研究会）

1. 昭和三〇、一、五。岡藩の土地宅地制度につきて。解説北村清士、後に質疑応答。

2. “ 六、一二。史蹟踏査（切支丹洞窟愛染堂、仏足石等）

3. “ 三一、二、一〇。竹田町の水路の沿革、解説北村清士氏

4. “ 五、二一。西南戦役記念講演会、桜木寛像、黒田勇、北村清士の各氏解説

5. “ 五、二八。七ツ森古墳につきて、北村清士氏解説

6. “ 七、八。竹田市、直入、大野両郡刀剣展示会。五十八振の出品があつた。

(二)、会誌発行

1. 昭和三〇年二月十日竹田史談会報第三巻。

2. 昭和三十一年五月三十一日、西南戦史特集号、第四巻。

日田史談会、日田考古学同好会は夫々毎月一回会合して研究をしてゐる。

NHK大分放送局郷土資料調査は二九年度に引き続き、久多羅木、半田、加藤、賀川、松岡、立川の各委員に最近歌人田吹氏を加え

直入、朝地、佐伯、宇目、庄内、九重、安岐
武蔵其他県下各地の市町村を毎月一回二泊三日の实地踏査を行ひ、その成果を毎月第二土曜の午后五時半より三十分間放送し、相当の反響を呼んでいる。なほ同委員会編、朝地町と佐伯市の調査報告書と県下年中行事一覽、郷土著名人忌辰録は夫々別冊非売として同放送局から刊行された。因に同放送局より放送している大分県方言の旅も同放送局よりその第一巻が出版されている。

大野町文化財研究会は町公民館活動の一環として活動しているが、蓋し県内公民館中の白眉と称すべきであろう。本会は同好会員を以て組織し、町内文化財について研究し、之が保護活用を図り、以て町民の文化財に対する認識を向上せしむるため、調査研究物の刊行、实地見学踏査、講演会を開催している。既に発表されたものに地名を主とした郷土研究七巻、外に人物篇、信仰俗信篇、詩文篇参考篇の四巻と民俗資料「はなし」十五巻がある。

中津郷土文化研究会は中津図書館長今永正樹氏、県文化財専門委員山本聰治氏等を中心として、会員研究物の刊行、宇佐郡佐田地方

其他の实地踏査並に講演、座談会を行つてゐる。

東国東郡姫島村では西村教育長が中心に推進して、土地の郷土史家を動員し、併せて各界の学者先輩にも機会あるごとに連絡をとり遺漏なき郷土史を編纂すべく着々進行中で、既に之が中間報告として、三、四の資料を出版し、本年に入り植物編を出し、近く漁業編と、塩田編を出版する由であるが、遺憾ながら筆者はまだ何れの現物をも見てない。

宇佐山郷土文化協会も引き続き大隈米陽氏等が中心となり、別府史談会も兼子、福田両氏を失ひ多少のさびしさを感じられるが相変らず見学其他を持続している。

佐伯史談会は中心増村隆也氏の津久見転住のため、大分史談会は会長高山氏の死亡と幹事立川の大大分県地方史合流のため、又二豊学会も同じく中心幹部の大大分県地方史への参加と委員長の松本義一教授が、専門の国文学方面の研究指導と発表のため、其他大大分県民俗学会、東九州考古学会等、何れも目下開店休業中である。但し大大分県民俗学会と東九州考古学会は、共に発展的解散をして、新に大大分県考古民俗学会として今十月二一日再発足す

ることになつてゐる。其他の東国東郡熊毛村文化協会、中武蔵村文化史研究会、馬溪学舎等の其後の活動に就ては残念ながら寡聞の筆者は知るところがない。

大分県地理学会は会長兼子俊一大分大学教授の下に同好の士が集り盛に研究を持続されている。

大分県小学校社会科クラブは昨三〇年度郷土資料「私たちの大分県」を、尋三用より尋六迄各学年別に東京弘学社より出版した。

県下文化財の調査研究保存に就ては、大分県文化財専門委員会より、その調査研究結果を三一年三月に「大分県文化財調査報告書第四集」と「大分県文化財一覽」として出版した。

県下の市町村中真先に組織した大分市文化財保存会では前に市内文化財調査目録と文化財資料集各々第一集を出し、文化財展示会等も引き続き行つて来たが、昨年来財源難から僅かに市内文化財と観光のスライドを市観光課の援助によつて作成することになり、之が選定をした位で休業状態である。

杵築市、速見郡地教委連絡協議会は速見地方文化財調査報告書を、県教育庁大分出張所

よりは大分郡文化財調査目録第一集を出して
いる。日田市文化財調査委員会は三〇年八月
に発足し、委員長革野忠右衛門氏の下に第一
部先史、原史時代（考古学）、主任高倉芳男、
第二部歴史時代（文書）、主任武石繁次、第
三部博物、主任長金次の各氏が分担し、之れ
に中島市三郎、古川克己、長直、大神円道、
穴井道昭、井上二郎氏が各部門の委員となつ
て新旧市内の史蹟、名勝、天然記念物、諸文献
等の各種文化財を实地踏査してその成果を報
告し、これを機関誌「日田文化」として発行
し今十月に第二号を発行した筈である。

東国東郡の県教育庁出張所よりも同郡の文
化財調査目録を出したとのことであるが見て
いない。去る八月、NHKの郷土資料調査員
が主軸となり、清原貞雄博士を団長とし大分
大学、各高等学校の先生と県教育研究所員等
計十七名で、日出生台学術調査団を西日本新
聞社主催、玖珠町並にNHK大分放送局と亀
の井バス後援の下に組織し、総員二名二泊
三日の調査を了え、豫期以上の成果を収めて
現地での報告会と西日本紙上、大分放送局よ
り発表があつた。

刊行出版物の主なるものは左の通りである

県下地方史研究の動向

(1)、大分県政史 戦後十年、諸般の地方制度

も再検討を要する秋を迎え、本県では過去
の県政の姿を知り、今後の指針とする為に
大分県政の刊行を企画し、県政篇A五、P
一三二七を昨三〇年三月三〇日に出し、第
二巻風土、沿革、通史篇、A五・P八四九
を三一年三月三〇日に刊行し、近く続篇を
発行の予定である。非売。

(2)、大分市史は去る三十年三月に上巻を市役

所より発行した。本市史は序説、地質時代
先史時代、国府時代、大友時代、藩政時代
の六篇よりなり、大分市の太古より明治四
年の廃藩に至る迄の歴史が書かれてある。

A五・P一三六〇・非売。因に下巻は現代
史と部門史で近く発行されることになつて
いる。

(3)、大分県史料は既刊二冊を出し好評を博し

たが其後左の通り続刊して愈々斯界の期待
に添ふている。

(1) 大分県史料(四) 第二部、西国東、東国
東、速見各郡諸家文書。A五・P六〇二

・昭和三〇年三月三十一日刊。

(2) 同 (四) 第二部、速見郡諸家文

書。A五・P三八七・昭和三〇年十二月

一日刊。

(3) 同 (4) 第一部、宇佐永弘文書

二。A五・P六〇四・昭和三一年一月三
一日刊。

(4)、田北孝氏編、続大友史料 戦前既に大友

史料家わけ（義鎮・義統）二冊と編年大友
史料二冊とを東京富山房其他より発行して
洛陽の紙価を貴からしめた氏は、昨三〇年

一月以降続大友史料（家わけ）五巻を出し
（謄写印刷・和装B五、約二五〇頁）近く
第六巻を出すと共に、これと併行して待望

の続編年大友史料を順次出版することにな
つている。何れも巻末に実物大の各種関係
花押が集録されて花を添えている。

(5)、大分県教育研究所出版物中地方史関係の
ものは左の通りである。

(1) 漁村と教育 昭和三〇年四月一日刊。

(2) 大分県教育資料目録 昭和三〇年四月
三〇日刊。

(3) 地域教育計画に関する基礎的研究 昭
和三一年三月三十一日刊。

(6)、大分郡庄内郷土誌 A五・P二二六・本
書は庄内町の同誌編纂委員会によつて昭和

三〇年三月二十四日に発行された。

- (7)、観光日田 A五・P一〇一・昭和三〇年二月一日刊。非売。名所旧蹟、神社仏閣日田の風物詩、日田の歌謡、日田の先哲其他の地方史資料がある。
- (8)、竹田市展覧 B五写真版凡五〇、P約一〇〇、昭和三〇年一月二〇日竹田市制施行記念刊行会発行。非売。
- (9)、画聖竹田先生百廿年祭誌 同協賛会記念出版。A五・P一一八、昭和三〇年六月刊。非売。
- (10)、昭和三〇年大分県統計年鑑 B五・P三〇三、昭和三一年三月三十一日企画調査課刊。非売。
- (11)、教聖広瀬淡窓 古川克己著、B六、P一八、昭和三〇年十一月一日淡窓会刊。非売。
- (12)、対校豊西記 完 森春樹著、大蔵和市校合、A五・P一七六、昭和三〇年十一月一日大蔵三光堂発行。非売。
- (13)、二九年版大分市勢要覧 A五・P一六八、昭和三〇年三月一日大分市役所発行。非売。
- (14)、日田林業史料、林業発達史資料才三〇号の復刊、B五・P五一、林業発達史調査会昭和三〇年五月刊。非売。
- (5)、一九五五年大分市の教育 B五・P二四、昭和三十一年大分市教育委員会発行。非売。
- (6)、おおいだ B五・写真版四八頁、昭和三十一年三月大分県商務観光課刊。非売。
- (7)、西武蔵村誌、淵上金吾編 A五・P一二八、昭和三十一年五月二〇日石川義行発行。非売。
- (8)、葎屋集(上) 物集高世著、松本義一校訂解説、文庫版、P一二四、二豊文芸学会刊。非売。
- (9)、渡辺重名と本居家との交渉 松本義一編 B五・P六四、昭和三十一年八月一日松本研究室刊。非売。
- (20)、昭和卅年度庄内町勢要覧 A五・P五〇、昭和卅年十二月三〇日庄内町役場刊。
- (21)、栄光の七十年 A五・P一二一は戦後の学制改革により、新制高等学校として発足した上野丘高等学校が、その母体の旧制大分中学校の七十周年、才一高女の五十五周年、才二高女の二十五周年に当るので、夜間中学校を加えて、これらの諸学校の残した不滅の業績をたたえ、上野丘高校への合同新生をよるこび、併せて学園の悠久の発展を祝する為め記念式典を挙げた際に編集
- して関係者一同に頒布したもので、昭和三〇年九月二五日刊。
- 各種行事として先づ日本キリシタン博物館の建設運動を挙げたい。我が大分市、昔の府内は日本キリシタン史上最も輝かしい歴史を持つてゐるが、現大分市長上田保氏は自から中心となり、同志と共に右建設委員会を四、五年前設け、四百年以前の府内の切支丹施設を復活し、之が遺蹟顕彰の爲め、キリシタン歴史博物館を中心とする、カトリック文化センターの建設を企画し、既にローマ法皇庁より、米貨一千ドルの御下賜があつてゐる。委員会は資金調達の一方法として、市内に工場を設け、竹製ロザリオ・七宝のマリヤ像・朝倉氏作キリスト像等を多量製作中であるが、近く上田氏は之を携え、ローマに行き、直接後援を仰いで、広くカトリック信者は勿論、全世界の希望者に購求して賣うことになつてゐる。
- 淡窓の百回忌を迎えた日田市淡窓会では昭和三〇年十一月一日盛大な百年祭を度修し、淡窓図書館司書克川克己氏の著「教聖広瀬淡窓」を刊行して之が顕彰に資した。
- 又、同市文化財調査委員会では、日田の生

れた。西国翁二百六十回忌法要を本年七月一日に當り、同市出身現佐賀龍谷大学助教授大内初夫氏稿「九州談林派の巨璧中村西国伝」孔版A五・P一八を実費配布した。

天正八年四月、大分郡庄内町熊群城を追われ、日田郡大山村松原で討たれた田北紹鉄と同じく悲惨な最後を遂げた奥方等十二名を、五馬莊小迫の台地に里人が葬つて以来、塩谷代官の命により墓碑と堂宇を建ててその靈を慰めて来たが、其の後星霜を重ね、堂宇は崩壊して見る影もなくなつていたのを遺憾として同地穴井清太氏が主唱して堂宇改築同志会を結成して改築し、之が落成記念として由縁の人、田北孝氏の「熊牟礼山の乱と五馬戦史」B五・P二七、五〇部限定と、穴井通照氏述「田北大和守紹鉄と奥方」二頁を昭和三十一年四月清泉文庫より刊行頒布した。

幕末の劍豪島田虎之助（見山）の命日を去る九月十六日迎えた地元中津市では、中津硯山会が生まれて之れが慰霊祭と各種行事を行い、島田鳴堂氏著「特輯島田硯山号」を中津郷土文化研究会より発行頒布した。

庄内郷土誌の発刊を記念して昭和三〇年六月、庄内郷内の古文書・古記録類の展観会を

催し、併せて之れが調査結果と、同地方関係の地方史に就いて研究発表があつたが、予期以上の多数出品と、肥前国図田帳の断簡を同町曾根崎元一氏の所蔵中より発見したことは調査の竹内理三教授・清原貞雄博士・渡辺澄夫教授其の他参加の面々をして大いによろこばせた。因みに研究発表者は前記の外、兼子教授・半田助教授・中野県研究所員・久多羅木儀一郎・立川輝信の参加諸氏で多数村民を啓発するところ多大であつた。

高・中・小学校での研究活動では社会科日本文史の出発点でもあり又、帰着点でもある筈の地方史研究も入学試験に関係がないので殆んど顧り見られない実情であるが、僅かに大分市舞鶴高校の染矢教官の地名の研究は続けられて同校社会科研究部地名研究グループによる「地名の研究」才二集が出された。又、臼杵商業高校の吉田豊治教官指導の同校地方史研究部はその研究成果を「臼杵史学」として創刊号を昭和三十一年一月に発行した。

日田高等学校郷土史班では高倉芳男教官の指導の下に、造領記・日田竹鎗騒動其の他の文献を謄写印刷して頒布し地方史研究に資する所が大きい。

其の他玖珠高校社会科では、郷土関係の社寺外幾つかを研究、謄写出版されているとのことであるが、一瞥する機を得ない。

中学教官中にも別府市青山中学の安部巖氏東国東郡の栗林氏其の他各郡市に特志研究家が点々とあると県の指導主事は話されていた個人研究としては先きに好著佐伯郷土史上・下二巻を著わした医博増村隆也氏は、其の後本誌にも三・四の研究発表をされたが、近く「簡明臼杵史」を出版することになつている。同史はB六、九百二百頁で、竹内理三教授の校閲、中根貞彦氏の序文がある由。

武石繁次氏（日田市）は真摯（しんし）なる郷土史家で、今迄幾多の著書と稀覯文献の復刻等、又研究を「日田文化」其の他に発表し地方史研究に寄与するところ大であつたが更に日田金石年表五巻・日田百伝説集五巻・日田民話一巻・日田放言集一巻・日田歳事記一巻も脱稿し、目下「日田の城趾の研究」名郡代塩谷大郎伝・郷土先賢伝其の他を執筆中の由。前記林野庁林業発達調査会より復刊された「日田林業史料」は氏の旧著である。佐伯市匹田泉氏は黙々として資料の蒐集に力をそそぎ、その目録は順次本誌に発表され

ている。なお、氏の調査による西野小供組は本誌次号に発表することになっている。

竹田市図書館長の北村清士氏は前記の通り竹田史談会の名に於いて各種文化団体・学校等に出張講話している外、三〇年五月には「詩情豊かな岡城物語」を、又三一年八月に「竹田市名勝旧蹟を尋ねて」を何れも新書版で発行した。

久多羅木儀一郎氏は目下大分市史の編輯主任として主力を注いでいるが、その傍ら、竹田莊藏版の中国小説を三〇年一月の二豊の文化に、七ツ森古墳をめぐる伝説を三〇年二月号の教育広報に、臼杵久木小野のマンダラ石と臼杵最初の洋画家を三〇年五月号の臼杵史談に、ヤセウマ小考を三〇年九月七日の大分合同新聞に、広瀬淡窓の書簡三通を三〇年一〇月の二豊文化に、安養寺慶念の朝鮮日記を三一年一月号の臼杵史談に、浜の市と杵築芝居を三一年一月号の杵築史談に、酒と郷土先賢を三一年三月号の二豊文化、伊藤仁斎の門弟可児亥好を三一年五月号の臼杵史談に、大野川と舟遊および川狩を三一年七月号の二豊の文化に、其の他県文化財調査報告書や本誌にも発表されている。

別大教授を兼ねている大分市医博辛島詢士氏は永年に互り研究執筆中の「大分県医学史」の一節として大分県地方史三〇年度総会で発表された「佐野博洋と長崎絵とボクラテス像」は、更に稿を新にして、長崎談叢才三七輯に所載して新界の注目を引いている。尚、氏は豊州雑筆三一年七月号新二豊風土記に先哲遺墨我観を発表されている。

松本義一教授は前記の律屋集上巻・渡辺重名と本居家との交渉」の外、三〇年八月三〇日に大分県の民謡を大分合同新聞に、同日付、日田地方調査蕉門作家の墓石発見を大分新聞に、同九月号の県政の窓に蕉門作家長野馬貞を、同九月十七日、郷土顕彰——馬貞二百年祭にあたって——を西日本新聞に、又同一八日毎日新聞に、恵良を訪れた蕉門作家たち——馬貞二百年祭にあたってを、大分県下の芭蕉塚を、同二二日付大分合同新聞に、佐賀関の関中務少輔について——日田蕉門作家野紅・りん女との交渉——を一月号の「坩堝」に、馬琴と豊後を三一年三月二日と三日の大分新聞に、俳人一茶庵菊舎尼と別府を三一年三月号「蘇門」に、蘭室詩碑上・下を大分新聞三月二一・二両日に、高世の胸痛上——椿八幡社

祠官辞任の事——を八雲四月号に。西南の役と二豊——物集高世の日記から——を四月号の二豊の文化に。野坡門作家野梅堂虎角上・下を四月十三・四両日の大分新聞に。高世撰類題歌集とその門下を三一年四月号の杵築史談に。大分県下の句碑を大分県文化財調査報告書才四集に。歌碑と句碑を三一年五月八・九・一〇の三日間大分新聞に。晩年における物集高世の和歌作品を三一年五月号の「豊のまもり」に。森鷗外作「長曾我部信親」を三一年五月三〇・三一日並びに六月一日より九日に至る大分新聞に。清風舎三塚乙人を六月二五日より二九日迄の大分新聞に。南大分梅花塚を七月号の坩堝に。重名宛宜長書翰を七月号歌帖に。吉野・臥龍梅を六月一七日より二〇日迄。山弥長者の祖先を七月三〇日より八月二日迄の大分新聞に。脇蘭室顕彰碑の碑文についてを豊岡小学校創立八〇周年記念誌に。高世の胸痛（中）を九月号八雲にそれ／＼発表されている。

中津市島田鳴堂氏は引き続き中津島田由来記五（中津の起因其の他）同六（中津島田由来記に必要な年表・同に関連ある神社仏閣・天保義社の由来）同七（豊前古刹吉祥寺・寛

永水道) 同由来記特輯島田觀山号を三一年九月に、これへ發刊されている。

杵築市土居寛申氏は杵築史談会長・杵築市速見郡文化財調査会長として活躍。その研究結果を、杵築史談・豊州雜筆・本誌並に調査報告書として發表されている。

中津市山本聰治氏は三〇年三月に史蹟耶馬溪青の洞門A五・P三〇を出した外、本誌其の他にその研究を發表している。氏は目下中津市其の他の織部燈籠の研究を続けつつあるが、何れ近く發表されることと思う。

中野幡能氏は、八幡信仰の二元的性格を宗教研究一四四号に(三〇・七・二五)宇佐仏教と虚空藏寺を三〇年五月号の宇佐史研究に大分県教育史(1)上代を教育広報三〇年七月号に。同(2)中世(一)を同九月号に。豊後国富貴寺の研究を日本歴史三〇年十一月号に。山岳宗教と仁聞信仰を同十月号の宗教研究に。大分県教育史(3)中世(二)を教育弘報三〇年十一月号に。中世宇佐八幡の神職制度を三一年二月号神道学に。大分県教育史(4)中世(三)を三一年三月号教育弘報に。中世村落における仲人の発生——宇佐八幡本好氏をめぐる——を三一年八月号の宇佐史研究に。変革期における主

体の形成——豊前・豊後における藩学と私学を三一年九月号の教育史研究に。宇佐八幡における清拔の変遷を九月号の神道史研究に。其の他を本誌其の他の雑誌に發表されている。

藤原正教氏(大分大学附属中学教官)は民俗に就いては正月行事を三〇年一月号の県の教育広報に。納屋部落の村落構成・九重山麓の婚姻習俗・祖母の正月行事の三篇を河出書房刊「日本文化風土記」九州篇に發表してある。又、歴史教育に就いては「文化財による学習指導」を始め外十篇を「教育広報」其の他各種の誌上に發表してある。

酒井富藏氏は高田高校(豊後高田市)田原校舎に職を奉じて居るが、先に富貴寺を著わし、後には岳父河野清実氏の遺稿朝来郷土史を編集し、熊野石仏(大日尊)の人類学的考察外三篇を本誌に發表し、近く「豊後高田市誌」B五・P八〇〇を刊行準備中の由。

渡辺澄夫教授は吉川弘文館より「畿内庄園の基礎構造」A五・P七六四の大著を出版された外、各種の雑誌・新聞に地方史関係の論文をも出している。特に大分市史に氏が執筆された「国府時代」篇は出色あるものとの定評である。

半田康夫助教授は「景行天皇と兎狹の鼻垂」を三〇年一月の大分大学学芸学部紀要に。又、南大分羽屋の百手祭・宇佐放生会の傀儡子と木地屋文書を何れも本誌に又、長湯とキリシタン墓其の他を新日本文化風土記九州篇に。其の他大分県政史では沿革篇をそれへ執筆して好評を博している。

別府大学助教賀川光夫氏は入江杵築校教官と共に本県考古学の先達で盛んに実地踏査を行うかたわら昭和三〇年二月の考古学雑誌に「石棺を外廓施設とするカメ棺」を、同六月に中津市教育委員会より「豊前中津市相原廃寺」を、又早水台B五・P二〇〇を大分県教育委員会より。縄文式文化、九州を昭和三〇年九月河出書房発行の日本考古学中に。中津市植田貝塚発掘を昭和三〇年十一月に中津市教育委員会により、豊後竹田七ツ森古墳を昭和三一年一月大分県教育委員会より。豊前中津市城山古墳調査報告を三一年三月中津市教育委員会より。大分県石造美術の調査を九大文学部各口教授と共に三一年七月と九月に実施した。

別府市松岡実氏は民俗特に俗信・就中、県下修驗資料の調査蒐集に意を用い相当の成果

を挙げてゐる。

県計画課の加藤数功氏の県下に於ける民俗・山岳・観光に関する調査研究は堂に入つたもので、その研究発表は裨益するところが多い。

本文の筆者立川輝信は三〇年度盆踊り団七踊りについて「かや考上・下、坊主考上・下」の各篇を大分新聞に。又「ニセ札まかり通る」を大分合同新聞に。三一年度には伝、竹田の画いた板戸を大分新聞に。新二豊風土記「柞原八幡宮と庄内」を雑誌「豊州雄筆」二月号に。享保十一年の南郡因尾村の走り百姓と逃散に就いてを本誌に発表した。

その他県下には地方史研究の機運に乘じ、一段と研究を進められている人々が多数あることと思うがこれを調査するの時日と機会を得ないのを甚だ遺憾とする。記載もれの各位に対しては筆者の寡聞を厚くお詫びして筆を擱く。

三木俊秋氏の転任

本県教育研究所員で大分県史料編纂員を兼ね、県下古文書の調査研究に多大の貢献をなし、その真摯なる研究態度と、その成果の発表

に対し、本誌同人一同よりも敬意を表され將來を嘱目されていた三木俊秋氏は、今回十一月一日付で九州大学九州文化史研究所主任として榮転された。本県としては惜しい人であるが御本人の爲めに祝福すると共に御健康で將來の御発展を一同お祈り致します。(立川)

新刊紹介

田北学教授編輯

続・編年大友史料 併 大分県古文書全集

戦前富山房より出版された編年大友史料二巻は、大に学界に認められ、既に稀覯本となつて浴陽の紙価を高くしている。従つてこれが続編の出版を待望すること久しかつたが、愈々今回既刊中の続大友史料同様編者の自費で刊行された。

本巻には正平七年正月より、文中三年二月迄の、大分県古文書と、大友史料を篇年に収録してあるが、この史料中には、今日では最早、散逸して無くなつてゐるものも沢山含まれてゐる。例によつて各古文書とも、懇切な註釈が附してあるので、大友氏の歴史は勿論

九州の歴史事実を容易に且つ正確に知ることが出来る。

因に続編年大友史料は、全十巻の予定で、毎巻百部限定の出版である。購読希望の向は直接編者或は大分市上野町立川輝信宛申込りたい。

B五、孔版、和綴、美装本、二百二十餘頁 頒価一部六百円・郵税九州管内五拾五円。

大蔵和市校合

対 豊 西 記 完

豊西記は豊後の国の豊西、即ち日田郡の記録で、森春樹の著である。日田で一番古い本で、日田の古事を知るには最良の貴重本であるが、なか／＼手に入らない稀覯本であつた。

然るに編者故大蔵和市氏は、これを遺憾とし、生前自ら各種類本を校合して、完本の編纂を志し、漸く多年の念願を達しながら、出版半ばにして不帰の客となつた。後嗣大蔵庸世氏が亡父の遺志をつぎ、その三回忌の供養に出版されたのが本書である。

A五、並製、一七六頁・昭和三〇年十一月一日大蔵三光堂発行。非売 (立川記)